

豚の病気のいろいろ VI

細菌

豚丹毒

豚丹毒菌の感染による熱性の急性伝染病で 春から夏に多発する。本病は法定伝染病であるので発生したらすぐ家畜保健衛生所を通じて届出なければならない。この菌の自然界での分布は広く、健康豚の扁桃からも検出される。輸送、環境、飼料の急変、各種の予防注射後など体力が低下した際、この菌で汚染された飼料・飲み水の摂取などにより発病、伝染する。

もっとも被害の多いのは急性敗血症型である。元気、食欲が急に衰え、起立や歩行をきらう。40～42度の高熱を出し、耳端、背腹部、後軀に赤～暗紫斑があらわれる。1～2日で死亡するものが多く豚コレラとの鑑別を要する。蕁麻疹型においても、当初は元気、食欲の低下、発熱が見られるが、1～2日後に1辺が2～5cmの菱形、不正方形のやや隆起した淡紅色の特徴的な発疹が、頸、肩、背、後軀などに散発する。多くは5～10日の経過で回復する。また急性症からの回復後しばしば心内膜炎を起こし、心臓の弁膜にカリフラワー状の腫瘤形成、四肢の関節炎など慢性症に移行し、発育不良になるものがある。

治療には免疫血清 (0.5ml/kg) およびペニシリン (3～5万単位/kg) が有効で、とくに発病初期に両者の併用は著効がある。予防には生菌ワクチンを春先あるいは春秋の2回注射する。その免疫期間は約6カ月である。病豚の糞尿には多数の病菌が含まれているので器物、人を介しての伝播に注意を要する。また稀には人も感染する。その多くは死亡豚の解剖時に手指の小さな傷口からこの菌の侵入を受け、指掌ときには腕、腋窩リンパ節までは発熱する。

豚赤痢

3～5カ月齢の豚に多発しやすい慢性の感染症で、大腸に局限した出血性炎で本病の病原体はvibrio coli (豚赤痢菌) であるとされ潜伏期は2～3週間とみられている。一般に汚染養豚場へ20kg前後の肥育用豚が導入された場合、これらの豚が2～3週後に発病するという事例が多い。臨床症状では血液を混じた下痢便がもっとも特徴的で、その他貧血、皮膚の粗荒、削瘦がみられるものもある。致死率は低く数%にとどまるが、飼料要求率が悪くなり経済損失が大きい一方、いったん発生をみた養豚場は本症が常在化する傾向がつよい。血便の状態もまちまちで、むしろ便秘するものがある。その他緑色のやや堅めの便から一見血液の存在の不明なものもあるので、疑わしい場合には潜血反応 (シノテスト4号) をするとよい。いずれにしても2～5カ月齢の導入豚に便の異常がみられた場合、本症を疑うべきである。

豚赤痢と診断または疑われた場合、一応マクロライド系の抗生物質の投与が効果的であるとされている。すなわち1kg当たり5mgの皮下または筋肉注射を2～3回行なうとよい。

また血便が見られなくなっても1～数週間はこれらのプレミックスの飼料添加が賞用されている。

流行性肺炎 (SEP)

昭和38年静岡県下の豚で初発例が報告されて以来年々その頻度が急速に高まり、近年では屠場で剖検される豚の50%から70%に肺病変が認められている。離乳前後の子豚でも約30%が罹患しており、哺乳期間中に母豚から伝播をこうむっている。この病原体はマイコプラズマの一種Mycoplasma hyopneumoniae であることが最近明らかになった。

症状は慢性経過をとるので感染初期の哺乳豚では一見健康にみえ、明確な臨床症状を呈するものはむしろ少ない。肥育期になると元気、食欲ともに不振となり乾いた咳をするものがときに認められるようになる。また二次感染をうけて著しく発育が阻害されるものもある。しかし罹患豚の大部分は慢性経過をとり屠場への出荷体重 (90kg) に到達するのに約20日から30日間も遅延する。このために飼料要求率が増大し、経済的損失の大きな原因となっている。従来の病理学的ないしは病理組織学的診断法に加えて、最近では生前診断法として補体結合反応や凝集反応が開発され野外で応用されつつある。

治療例としてはテトラサイクリン系抗生物質による報告があるが一般には根治が困難であり予防に徹することが重要である。すなわち、①哺乳期間中の子豚への数種の抗生物質の予防的投与②早期離乳しかつ抗生物質を予防的に投与する③分娩直後の子豚を母豚から離し人工乳で隔離飼育する。これらの豚群には他の豚群からの豚を混入しない④SPF豚による集団交換を行なう一などの方策によりSEPを防除することができる。

SEP と ARが豚の発育に及ぼす影響 (流行性肺炎) (萎縮性鼻炎)			
調査例(1)豚の発育とSEP、ARとの関係(米国)			
区分	90kg 到着後日令 ～150日～170日～190日 190日～	平均所要日数	
健康群	80.3%	19.7%	146.2日
SEP、AR感染群	12.2%	39.3% 39.8% 8.7%	175.5日
G. A. Young et al. 1959による			
調査例(2)SEPと出荷日令 (日本)			
	90kg出荷日令 ～200日～ 230日～		
SEP感染率	15%		77%
藤原ら、1967による			

(波岡原図)

新発売

牛体，牛舎，車輛，野菜の洗滌に

ワンタッチエプロン

着脱容易

特徴

ビニール製で胸から膝下まで被います
背中や腰にとりつける紐は一切ありません。
エプロンの中に特殊の仕掛けがあります。
腰にあてがうだけで身体にとりつけられます。
濃紺と白色と2種類あり清潔です。

価格

A型 960円…足の部分が分かれているもの
B型 840円…普通の前掛タイプで一枚450g
送料別です。



雪印種苗株式会社

本社	062	札幌市美園2条1丁目	電話	札幌 831-1161	— 省略	サツポロヒガシ・ユキタネ
東京支店	110	東京都台東区台東3丁目41-5 東慶ビル内	電話	東京 833-5511	— 省略	タイトウ・ユキタネ
盛岡支店	020-01	盛岡市大通3丁目7の9 東北堂ビル内	電話	盛岡 22-3195	— 省略	モリオカ・ユキタネ
岡山支店	700	岡山市巖井字丸山1482-1	電話	岡山 52-0395	— 省略	オカヤマ・ユキタネ
熊本営業所	860	熊本市草葉町1の21 畜産会館内	電話	熊本 53-5194	— 直通電話	0963-54-6620
釧路出張所	084	釧路市鳥取南5丁目1-17	電話	釧路 23-6141	— 省略	クシロ・ユキタネ
北見出張所	090	北見市南仲町1丁目6	電話	北見 3-4603		
帯広出張所	080	帯広市東2条南14丁目	電話	帯広 3-4419		
本社直売所	062	札幌市美園2条1丁目	電話	札幌 831-1161		
上野幌育種場	061-01	札幌市厚別町上野幌	815	電話	札幌 891-2803	
草地酪農研究農場	284	千葉市長沼原町	631	電話	千葉 59-2826	
藤の沢農場	061-22	札幌市藤野1区		電話	札幌 591-8527	
札幌種子工場	062	札幌市美園2条1丁目		電話	札幌 831-1161	
江別工場	067	江別市1番町16		電話	江別 2-3047	
松戸工場	271	松戸市根本 153		電話	松戸 62-9155	
釧路工場	084	釧路市鳥取南5丁目1-17		電話	釧路 23-6141	
北上工場	024	北上市飯豊町村崎野第14		電話	北上 6-2226	